

プレスリリース

大竹伸朗展



2013年7月13日(土) – 11月4日(月・祝)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

お問い合わせ及び資料のご請求先：

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
〔展覧会担当〕 中田耕市、古野華奈子、松村円
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
E-mail. press@mimoca.org

大竹伸朗展



【概要】

大竹伸朗展 ニューニュー Shinro Ohtake: NEWNEW

会期：2013年7月13日（土）～11月4日（月・祝） 会期中無休 [115日間]

時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

助成：芸術文化振興基金、公益財団法人花王芸術・科学財団、財団法人自治総合センター

協力：Take Ninagawa

□観覧料

一般 950円（760円）、大学生 650円（520円）

＊常設展「猪熊弦一郎展」の観覧料を含みます。

＊（ ）内は前売及び20名以上の団体料金。「瀬戸内国際芸術祭 2013」夏及び秋会期中、パスポートをお持ちの方も（ ）内の料金でご覧いただけます。

高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

□前売チケット

2013年6月中旬より下記の販売場所にて発売予定

○ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 1階受付

○ [丸亀市内]あーとらんどギャラリー(0877-24-0927) オークラホテル丸亀(23-2222) おみやげSHOP ミュー(22-2400) きままや(22-9361)

【見どころ】

1. **四国では11年ぶり**となる大竹伸朗展です。
2. 大竹伸朗、久々の**大規模な新作展**です。
3. 高松市美術館と連動し、**夏期には香川県内で2つの大竹伸朗展**をご覧ください。

【広報用画像】

作品画像の掲載をご希望の方は、当館公式ウェブサイト（<http://www.mimoca.org/ja/press/>）またはメール（press@mimoca.org）にてお申し込みください。

大竹伸朗展 憶速

高松市美術館

2013年7月17日(水)～9月1日(日) [47日間]

＊当館での「大竹伸朗展 ニューニュー」と会期が異なります。
ご注意ください。

大竹伸朗展



【開催趣旨】

大竹伸朗（東京・1955 年–）は、1980 年代初頭に新しいペインティングの旗手として鮮烈なデビューを飾って以来、質・量ともに比類ない作品を生み出し続けるとともに、写真、本、印刷物、音などの表現手段を取り込み、多彩な活動を展開してきました。また、異分野のアーティストとの協働を通じた旺盛な制作活動でも知られており、彼の影響力は、現代美術の世界にとどまらず、写真、デザイン、文学、音楽など、世代を超えてあらゆるジャンルに及んでいます。

2006 年には東京都現代美術館において大回顧展「全景」を開催し、少年時代のスケッチから新作まで 2000 点を超える膨大な作品群で大竹伸朗の全貌を紹介するものでした。また、2012 年 6 月には、5 年に 1 度ドイツ・カッセルで行われる世界最大級の国際展「ドクメンタ」に日本人として唯一招聘を受け参加しています。ここで展示された作品「MON CHER! A Self-Portrait as a Scrapped Shed」（モンシェリ：自画像としてのスクラップ小屋）は、国内外のアートシーンに大きな衝撃を与え、訪れた観客をはじめ美術評論家やキュレーターの好評を博しました。

本展は、宇和島へ移住して 25 年を経て新しい局面を迎えつつある「大竹伸朗の現在」に焦点を当てており、大竹にとって久々の大規模な新作展となります。当館の建築や展示空間を最大限に活かしたインスタレーションや鉄製の巨大な彫刻、そして絵画や平面作品等、新作及び未発表作を中心に構成する本展は、大竹伸朗の今後の展開を予感させる展覧会となることでしょう。

また、本展は大竹伸朗の四国では 11 年ぶりの個展となります。さらに、高松市美術館で行われる「大竹伸朗展 憶速」とも連動し、その会期中（2013 年 7 月 17 日–9 月 1 日）にかけては、香川県内 2 つの美術館で 2 つの異なるタイプの大竹伸朗展をご覧いただける貴重な機会です。

Shinro Ohtake
NEW

大竹伸朗展



【関連プログラム】

本展では展覧会に関連したさまざまなプログラムを計画中です。日程や内容については今後変更の可能性がありますのでお問い合わせください。詳細が決まりましたら当館公式ウェブサイト等にてお知らせいたします。

〈作品展示のためのボランティア・プログラム〉

新作のインスタレーション作品の展示設営を体験していただくプログラムです。美術館や展覧会への関心を深めていただき、また鑑賞の際に今まで以上に作品を楽しみ、味わっていただくためのきっかけを提供します。

日程：6月下旬-7月12日（金）

場所：3階展示室C、エントランスホール他 展覧会会場

参加料：無料

定員：10名

*募集方法等は後日ウェブにてお知らせいたします。

〈アーティスト・トーク〉

出品作家の大竹伸朗が作品や展覧会などについて語ります。

講師：大竹伸朗

日時：未定

場所：2階ミュージアムホール

参加料：無料

〈夜間開館〉

本展では、日中お仕事でお忙しい方も展覧会をお楽しみいただけるよう、第二・四土曜日に夜間開館を実施します。

日時：会期中の第二・四土曜日 18:00-21:00

*通常の観覧料金が必要です。

〈中学生向けワークショップ〉

講師：大竹伸朗

日時：2013年9月-10月ごろ

場所：2階造形スタジオ他

対象：中学生

参加料：未定

〈キュレーターズ・トーク〉

本展担当学芸員が展示室にて見どころをお話しします。

日時：会期中の毎日曜日 14:00-15:00

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

*事前申込み不要／当日1階受付前にお集まり下さい。



大竹伸朗展



[主な出品予定作品]

1. 作品名未定 2013 年

巨大なボーリングピンを用いた、高さ約 10m の立体作品。ネオンサインで彩られた錆色のピンが館内のエントランスホールに屹立します。

2. モンシェリ：自画像としてのスクラップ小屋 2012 年

2012 年、世界最大級の国際展ドクメンタにて発表。今回は森の中ではなく、「展示室内」に小屋が建ちます。この小屋は大竹自身の「身体」であり、その体内にライフワークである「スクラップブック」を内包しています。

3. 焼憶 2013 年

2013 年、世界のタイル博物館にて初めて公開された新作。大竹のこれまでの作品が転写されたタイルや、倉庫に眠っていた試作品の陶板で構成された、重さ約 2t の巨大な「本」です。

4. 作品名未定 2013 年

大量のネオン管からなる大型の立体作品。展示室の中空に浮かぶ様はまるで「ネオンの雲」のようです。

5. 森の連作〈カールスアウエ、カッセル〉

《モンシェリ》関連ペインティング、ドローイング

ドイツ・カッセルの森「カールスアウエ」に触発され描いたペインティングをはじめ、《モンシェリ》のドローイング等、約 50 点を展示します。

6. 作品名未定（大型平面作品） 2013 年

初公開となる高さ 6m、幅 4m の巨大な平面作品を展示予定。

7. 〈時憶〉シリーズ 2011 年-

大竹が 2011 年より取り組んでいる新しいシリーズ約 10 点一挙展示。

8. 作品名未定（グワッシュ作品） 2011 年-

2011 年頃より大竹はバクテリアの生態にインスピレーションを受け、グワッシュを用いた作品の制作に精力的に取り組んでいます。本展では約 60 点を展示予定。

9. 宇和島駅 1997 年

かつて駅舎に取り付けられていたネオンサイン。丸亀駅前に建つ当館が「宇和島駅」に変容します。



1. 参考画像



2. モンシェリ：自画像としてのスクラップ小屋
2012 年 dOCUMENTA(13)での展示風景
写真：山本真人



7. 時憶 17 2013 年



8. 作品名未定（グワッシュ作品） 2013 年

All images © Shinro Ohtake

【丸亀市猪熊弦一郎現代美術館について】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館は、1991 年、全国でも類を見ない“駅前美術館”として、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の全面的な協力のもと開館しました。猪熊本人より寄贈を受けた約 2 万点に及ぶ猪熊作品を所蔵し、70 年に及ぶ猪熊の画業を常設展示にてご紹介するほか、現代美術を中心とした企画展を開催しています。

また、講演会やコンサートなどの多彩なプログラムや、子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし育むことを目的とするワークショップなどの教育普及活動も積極的に行っています。



【アクセス】

- 鉄道（JR）で ※JR 丸亀駅下車、南口より徒歩 1 分

・東京駅（新幹線で約 3 時間 20 分）／博多駅（新幹線で約 1 時間 40 分）—岡山駅—（松山または高知方面行特急で約 40 分）—丸亀
・高松駅—（予讃線快速で約 30 分）—丸亀

- 飛行機で

[高松空港から] ・高松空港—（タクシー約 40 分／乗合タクシー＊約 50 分）—丸亀

＊〈高松空港シャトル便〉1 名片道 1,500 円／搭乗前日午前中迄の予約制(TEL.0120-135024 または 0877-22-1112)／東讃交通

・高松空港—（バス約 40 分）—高松駅—（予讃線快速で約 30 分）—丸亀

[岡山空港から] ・岡山空港—（バス約 30 分）—岡山駅—（松山または高知方面行特急で約 40 分）—丸亀

- 高速バスで

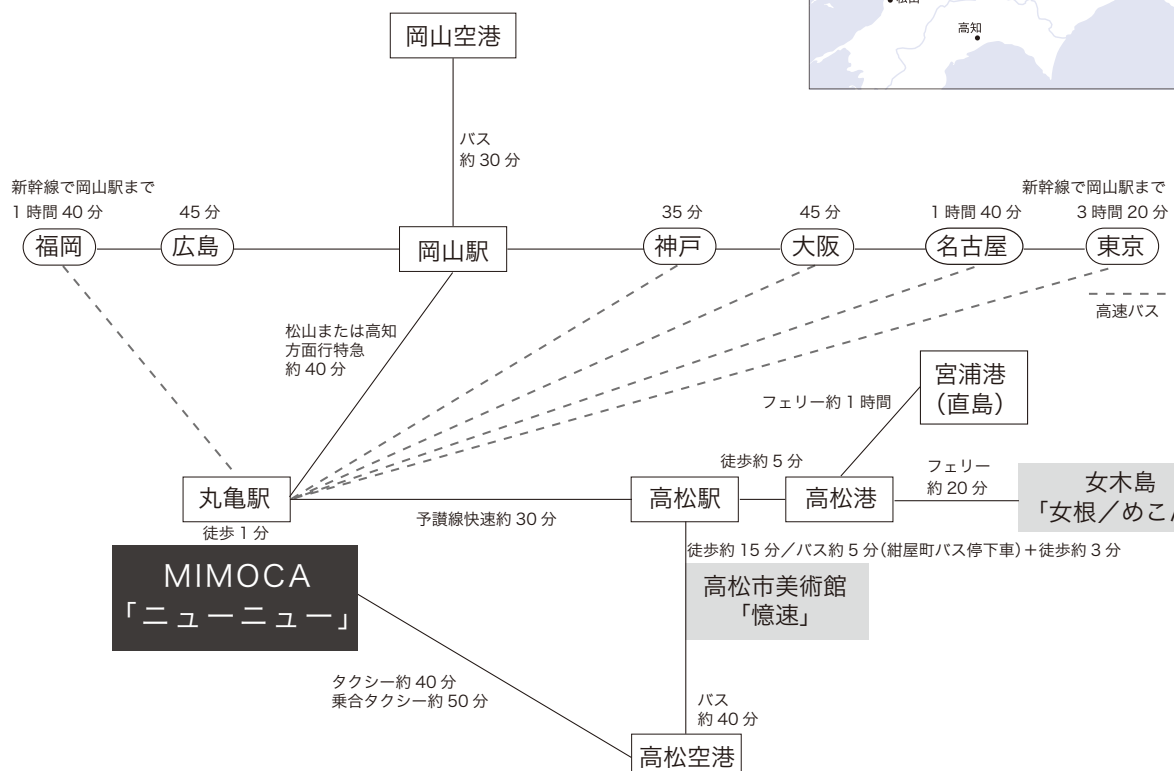
東京・横浜・名古屋・大阪・関西空港・神戸・福岡より直通運行

- お車で ※JR 丸亀駅前地下駐車場・1 時間無料

[本州方面から] ・（瀬戸大橋経由）瀬戸中央自動車道 坂出北 IC より約 10 分

・（神戸淡路鳴門道経由）高松自動車道 坂出 IC より約 15 分

[四国内の高速道路から] ・高松自動車道 坂出 IC・善通寺 IC より約 15 分



大竹伸朗 Shinro Ohtake

1955年東京生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

【主な個展】

- 2013 「大竹伸朗展 憶速」高松市美術館、香川
「大竹伸朗展 ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川
「大竹伸朗 焼憶展」INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館、愛知
- 2012 「大竹伸朗」アートソング・センター、ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」佐賀町アーカイブ、東京
- 2010 「#65 | 2005 - 2010」Take Ninagawa、東京
「#65」Take Ninagawa
- 2009 「貼貼貼貼/Shell & Occupy 4」Take Ninagawa
- 2008 「貼/Shell & Occupy」「貼貼/Shell & Occupy 2」「貼貼貼貼/Shell & Occupy 3」Take Ninagawa
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」ウルリー牧場、北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」広島市現代美術館、広島／福岡市美術館、福岡
- 2006 「大竹伸朗と別海」ウルリー牧場
「大竹伸朗 全景1955-2006」東京都現代美術館
- 2004 「UK77 写真、絵、貼1977-78年」ベイスギャラリー、東京
- 2002 「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展1982-2000」ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景」エブソン・イメージング・ギャラリー、東京
- 2000 「ダブ景 大竹伸朗」KPOキリンプラザ大阪
「大竹伸朗展」ベイスギャラリー
- 1999 「ZYAPA IORAMA 大竹伸朗展」バルコギャラリー、東京
- 1998 「新津—あいまいで私が日本 大竹伸朗展」新津市美術館、新潟
- 1997 「大竹伸朗 プリンティング／ペインティング」CCGA現代グラフィックアートセンター、福島
- 1993 「大竹伸朗 網膜」ギャラリー・ところ、東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」西武アート・フォーラム、東京／なんばCITYホール、大阪
- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」寺田倉庫Space T33、東京
- 1988 「キャンヴァシズム—夢と細胞 大竹伸朗新作展」西武アート・フォーラム
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」佐賀町エキジビット・スペース、東京
- 1985 「大竹伸朗—放浪する言語／未来の日本前衛」パラッツォ・ピアンコ、ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング／コラージュ」ICA、ロンドン
- 1982 「大竹伸朗 個展」ギャラリー・ワタリ、東京

【主なグループ展】

- 2013 「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」ヴェネチア
「瀬戸内国際芸術祭 2013」香川
「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」広島市現代美術館、広島
- 2012 「dOCUMENTA(13)」カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館(モスクワ)／ハイファ美術館群 (ハイファ)
- 2010 「10,000 Lives」光州ビエンナーレ2010
「これも自分と認めざるをえない」21_21 DESIGN SIGHT、東京
「瀬戸内国際芸術祭 2010」香川
- 2009 「I BELIEVE:日本の現代美術」富山県立近代美術館
- 2006 「武満撤：Visions in Time」東京オペラシティアートギャラリー
- 2004 「再考：近代日本の絵画—美意識の形成と展開・第2部」東京都現代美術館
- 2001 「スタンダード展」直島コンテンポラリーアートミュージアム
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」うらわ美術館ギャラリーD、埼玉
- 1999 「日本ゼロ年」水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城
「時代の体温 ART/DOMESTIC」世田谷美術館、東京
- 1996 「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks大竹伸朗+ヤマタカ・アイ」ザ・ギンザ・アートスペース、東京
- 1994 「600ソウル国際美術展」国立現代美術館、ソウル
「アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム
- 1993 「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」クイーンズランド州立美術館、ブリスベン
- 1991 「キャビネット・オブ・サインズ」テート・ギャラリー(リバプール)／ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン)／マルメ・クンストフェライン-1992
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」ストックホルム文化会館／シャロットテンボルグ美術展会場(コペンハーゲン)／ヘルシンキ市立美術館／レイキャビック市立美術館 -1991
「80年代の日本現代美術」フランクフルト・クンストフェライン／ボン・クンストフェライン／ウィーン近代美術館／ブレゲンツ・フェスト

- シュピーレ -1991
「ニュー・ネセシティ 第1回タイン国際現代美術展」ニューキャッスル
- 1989 「アゲインスト・ネイチャー：80年代の日本現代美術」サンフランシスコ近代美術館／アクロン美術館／MITリスト視覚芸術センター・ポストン銀行アート・ギャラリー／シアトル美術館／シンシナティ現代美術センター／ニューヨーク大学グレイアートギャラリー／ヒューストン現代美術館 -1991
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った"本"の展覧会」フランクリン・ファernas, ニューヨーク
- 1981 「ART POP Japan-Tokyo Today」ICA
- 1979 「 θ (シータ)」ヴィレッジ・ギャラリー, 東京

【主なライブ・パフォーマンス】

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96」ラフォーレミュージアム原宿, 東京
パズルパックスの初ライブパフォーマンス, 遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
- 1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパックス」結成, 初CDブック「パイプライン」(UCA)発表
- 1985 「ライブ・ワンズ!1985」ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・パフォーマンス, オックスフォード近代美術館, ロンドン
- 1980 「クルバ・カボル」B・C・ギルバート, グレアム・ルイス, ラッセル・ミルズとのサウンド・パフォーマンス, ノートルダム・ホール(ロンドン)
- 1978 音響実験グループ「JUKE/19」活動開始, 81年までにLP, EP5枚制作

【主なパブリック・ワーク】

- 2009 「直島銭湯 I♥湯」財団法人直島福武美術館財団, 香川
- 2006 「はいしゃ 〈舌上夢/ボッコン覗〉」財団法人直島福武美術館財団
- 1999 「北の空に浮かぶカタチ」札幌市生涯学習センター, 北海道
- 1990 「船首と穴」「切断された船首」「船尾と穴」株式会社ベネッセコーポレーション, 香川

【主な出版物】

- 2010 「NOTES 1985-1987」ジェイ・ブイ・ディー
「直島銭湯 I♥湯」青幻社
- 2008 「見えない音、聴こえない絵」新潮社
- 2007 「大竹伸朗 全景」大竹伸朗全景展実行委員会
「大竹伸朗展 路上のニュー宇宙」大竹伸朗展実行委員会
- 2006 「ネオンと絵具箱」月曜社
- 2005 「既にそこにあるもの」筑摩書房
- 2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」集英社
「UK77」月曜社
- 2002 「テレビン月日」晶文社
「18」青山出版社
- 1999 「ZYAPAIORAMA 日本景」朝日新聞社
- 1997 「YMCB」トランスアート
- 1993 「ジャリおじさん」福音館書店
- 1991 「SO:大竹伸朗の仕事 1955-91」UCA宇和島現代美術
- 1986 初画集「<倫敦/香港>1980」用美社
- 1982 「PSYCHEDELIC MAGAZINE LTD. vol.1」東京オペレーションセンター

【主なパブリックコレクション】

ニューヨーク近代美術館, ヴィクトリア&アルバート博物館

愛媛県美術館, 高知県立美術館, 駒ヶ根高原美術館

財団法人直島福武美術館財団, 佐久市立近代美術館

札幌市生涯学習総合センター, セゾン現代美術館

世田谷美術館, 高松市美術館, 彫刻の森美術館

東京オペラシティアートギャラリー, 東京都現代美術館

富山県立近代美術館, 新津市美術館, 原美術館

広島市現代美術館, 福岡市美術館, ふくやま美術館

ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム

CCGA現代グラフィックアートセンター